

『努力は必ず報われるとは限らない。そんなのわかっています。でもね...』

6月6日に行われた「第7回AKB48選抜総選挙」。4位に入った高橋みなみのスーチの全文を紹介する。

まず、みなさん本当に、ありがとうございました。私がAKBに入ってから、今年で10年が経ちます。7回目の総選挙、最後の総選挙でした。

1期生としてメンバーとして入ってきて、たくさんのメンバーの卒業を見送って

きました。いろんな葛藤や、いろんな思いがありました。そして、私は、入って1年ぐらいの時にあることに気づきました。「私はこのグループでは、1番にはなれない」ということです。

同期には前田敦子がいました。次の期には大島優子がいました。みんなすごくて、カリスマ性あって、絶対的人気があって。

私は歌手になりたいくて芸能界を目指しました。たくさんオーディションに落ちました。そして受かったのがAKB48でした。

歌手になりたいけど、アイドルになりました。カワイイとか、アイドルとか全然分からなくて。どうすれば人気ができるのかも分からなくて。でも、このグループがすごく好きになったから、すごく頑張りたいなって思って。気付いたらキャプテンになって、総監督になっていました。そして、総選挙があって。「私なんか、1位になりたいなんて言っちゃいけない」って思いました。

グループが好きだからこそ、グループの先を見ました。「この人がセンターになったほうがいいな」「この人が次1位になったらいいんじゃないか」自分のことなんてどうでもよかったんですけど…。でも、きっとここにいるメンバーみんなが思っていることを、私も一緒に思っています。

「1位になりたいって、言ってみたいな」ってことです。私は最後の総選挙で初めて「1位になりたい」と言いました。確かに、目標としていた順位には届かなかったし、ここまで呼ばれなかったから、1位になろうって思ったけど。

でもね、今、本当に清々しいです。1位になりたいって言って、ファンのみなさんと一緒に、ひとつの目標に向かって頑張ったことがとても嬉しいです。とても幸せです。

ここに立ったら何を言おうかとすごく考えていました。何を言うのが正解なのか。最後の総選挙で私は、みんなに何を残せるのだろうか。なので、ここからは、是非メンバーに聞いてもらいたいと思います。

私は、メンバーに残したい言葉があります。多分みんな、いろんな活動をしていて、「悔しいなあ」とか「頑張っても、100頑張っても1ぐらいしか評価されないなあ」って、たくさん矛盾を感じていると思います。でもね、人生というのはね、きっと「矛盾と闘うもの」なんだと思います。色々思うことがあると思う。

でも、頑張らなきゃいけない時っていうのがあるし。頑張らなきゃいけないときっていうのは、一瞬ではないということ、みんなに覚えておいてほしいと思います。

272人、今回立候補しました。呼ばれたのは80人でした。呼ばれなかったメンバーは、では、頑張っていなかったのか。違います。

みんな頑張っています。劇場公演に立ち続け、学業を両立して頑張って、自分のやらなきゃいけないことと一緒に頑張っているんです。でも、ここに立てるのは80人なんです。

だからきっと、AKBグループにいればいるほど、頑張りがわからなくなると思います。どう頑張ったら選抜に入れるのか。どう頑張ったらテレビに出れるのか。どう頑張ったら人気ができるのか。みんな悩むと思うんです。

でもね、未来は今なんです。今を頑張らないと、未来はないということ。

頑張りが続けることが、難しいことだって、すごくわかっています。でも、頑張らないと始まらないんだってことをみんなには忘れないで欲しいんです。

私は毎年、「努力は必ず報われると、私、高橋みなみは、人生をもって証明します」と言ってきました。「努力は必ず報われるとは限らない」。そんなのわかっています。でもね、私は思います。頑張っている人が報われて欲しい。

だから、みんな目標があると思うし夢があると思うんだけど、その頑張りがいつ報われるのかいつ評価されるのかとかわからないんだよ。

わからない道を歩き続けなきゃいけないの。きついでさ、誰も見ていないとか思わないで欲しいんです。絶対ね、ファンの人は見てくれる。

これだけは、私はAKB人生で一番言い切れることです。だから、あきらめないでね。

松村がまさか私の名言を言ってくれるとは思わなかったんですけど。そうね。

ネタにされるよね。キレイ事だもんね。

でもね。今年も、卒業してからも、言わせてもらいます。最後なので。まあよく、「アコースティック・バージョン」とか麻里子様にいじられたりしたんだけど。

これが、高橋みなみ・総選挙ラストバージョンです。

みなさん、一緒に言ってくれますか？いきます。せーの！

「努力は必ず報われる」と、私、高橋みなみは、これからも人生をもって証明します。ありがとうございました。

■ 教育最新情報 ■

1) 小中の区切り柔軟に、義務教育、一貫校を制度化、改正法成立

小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する改正学校教育法が17日、参院本会議で可決、成立した。小中学校と同じく、同法第1条で学校に位置付け、名称は「義務教育学校」とする。2016年4月から施行する。

義務教育学校は地域の実情に応じ、学年の区切りを「4・3・2」「5・4」など、柔軟に変更できる。学習指導要領で定めた学年の範囲を超えて、前倒しで授業をするには特例申請が必要だが、文部科学省は省令を改正して、義務教育学校については申請を不要にし、弾力的なカリキュラムを可能とする方針。

校長は1人で、教員は原則として小中両方の免許が必要。校舎は離れていても、一体でも設置できる。

従来の「6・3」制は、中学校に進学した際にいじめや不登校が増える「中1ギャップ」や、子供の発達の早期化で、現状の学年の区切りでは対応できていない点などが課題に挙げられていた。

これらの課題解決や、学力の向上などのために、一部の自治体が既に小中一貫教育を実施しており、制度化で一貫教育の浸透を図る狙いがある。小中一貫校の制度化は、政府の教育再生実行会議が提言し、昨年12月に中教審が答申していた。

改正学校教育法の骨子

●義務教育9年間を一貫して行う「義務教育学校」を新設 ●学年の区切りは「6・3」に限らず、「5・4」「4・3・2」も可能に ●校長は1人、教員は原則小中学校両方の免許が必要 ●授業内容の前倒しを国に申請せずにできる

2) 高校基礎テスト、国数英で、大学入試改革、

評価は10段階以上、検定料数千円、文科省検討

大学入試改革の柱の一つで、高校段階の基礎学力の定着度を測る目的で2019年度に導入される「高等学校基礎学力テスト（仮称）」（基礎学力テスト）について、文部科学省が対象教科を国語、数学、英語とし、成績評価は10段階以上で表示する形を検討していることが12日、分かった。検定料は1回当たり数千円とし、低所得層向けの支援策も検討するとしている。

中央教育審議会（中教審）は昨年、現行の大学入試センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」（学力評価テスト）を20年度から、高校生が自分の学習の到達度を確認できる基礎学力テストを19年度から、それぞれ導入することを答申していた。

文科省は基礎学力テストの対象教科を国語、数学、英語とする方向で検討。3教科の中でも全生徒が共通で学ぶ範囲の到達度をみるため、国語は「国語総合」、数学は「数学Ⅰ」、英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」で履修する範囲から出題する。作問に当たっては高校教員の参画も検討する。

受験するかどうかは生徒の希望によるとし、学校単位での参加も可能とする。高校2、3年の夏と秋の年2回の受験を想定。結果を高校での指導改善に生かすほか、高3時の結果を参考資料として推薦入試などの際の調査書に記載することも検討するとした。

学力評価テストについては記述式に加え、選択式ながら思考力を問う新たな問題の出題を目指す。さらに現在中教審で議論し、22年度以降に実施する高校の次期学習指導要領に対応して、24年度以降のテストでは数学と理科を合わせた新科目などからの出題を検討。選抜性の高い難関大学などが入試として活用できるよう、難易度の高い問題も出題するとした。

文科省は大学入試改革の具体策を議論する「高大接続システム改革会議」を今年2月に設置。今夏に中間まとめを出し、年内に最終報告をまとめる予定。

文部科学省が検討する「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の骨格

●「国語総合」「数学Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅰ」について学習の到達度を確認 ●高校2、3年生が夏・秋に年2回受験可能 ●検定料は1回あたり数千円。低所得層向け支援策も検討 ●成績は10段階以上で評価